

<翻 訳>

張詩劍「香妃夢回」

岩 佐 昌 暲

解題 張詩劍の長詩「香妃の夢 返る」について

中国における西域への関心は、歴代の政治権力の境域拡大の欲望に比例し時に膨張し、時に縮小しているが、遙かヨーロッパに連なる東西交通の東の要衝として、軍事、経済、文化の各分野にわたってその関心は途絶えることはなかった。そういう関心はむろん文学も同様であって、漢民族と西域に活動した諸民族との交渉によって生じた様々な出来事や事物が文学の素材として取り上げられてきた。有名な一つに唐代の辺塞詩がある。王之煥（688-742）、高適（702?-765）、岑参（715?-770?）といった詩人たちの詩群は辺境での過酷な戦闘や行軍を現実的背景にしているが、「紫髯、緑眼の胡人」の吹く悲涼な「胡茄」の音、「玉杯」で酌み交わす「ブドウの美酒」、果てしなく広がる沙漠に上がる戦いの狼煙（「大漠の孤煙」といったエキゾチックな事物や風景によって形成されるロマンチックな想像をかきたてる文学資源となってきた。

中華人民共和国になって、文学の素材としての西域はロマンチックな想像の対象たることをやめ、新国家の一地域として取り上げられるようになった。新国家の一地域たる西域、具体的には新疆ウイグル族自治区を中心とするこの地は、ソ連、インドなどと境界を接する軍事上の要地、石油など地下資源を埋蔵し、開発と発展が待たれる経済上の重要地帯、多数の少数民族が生活し、民族対立の火種を内包する政治上の矛盾の焦点、といった地政学上の特色を具えている。文学もこうした地政学的位置から来る政治的課題をその題材にするようになっていく。文革前に西域をとり上げた文学として思い浮かぶのは石油労働者の活躍を描いた李季（1922-80）『玉門詩抄』（55年）などの詩群、新疆の遊牧民の生活を牧歌的にうたった閻捷（1923-71）の『吐魯番情歌』^{トルファン}（55年）『天山牧歌』（56年）などの詩群だが、これらはいずれも新政権が直面した政治的課題（石油資源の開発＝工業発展と民族対立の融和）を文学上の課題として表現したものであった。文革後、八十年代の改革開放政策のもとで、西部開発（これは新疆よりもむしろ甘粛、寧夏の貧困地帯の開発だった）が経済発展の重要政策となった。これに呼応して、文学（特に詩歌）でも「西部詩歌」あるいは「新辺塞詩」と称される、かつての西域を対象とする詩歌が提唱された。その主要な詩人には章徳益（1946-）、周濤（1946-）、昌耀（1936-2000）らがいる。ただし、この文学的動向は余り成果

なく挫折したように思う。小説では、右派として新疆で暮した王蒙（1934-）のイリを題材にした「イリ系列小説」があった。だが、これらの文学に現れる西域は唐代の辺塞詩に淵源をもつロマンチックな想像をかきたてる土地ではない。

ここに翻訳する張詩劍の「香妃夢回」は、西域を題材とした詩である。だがすでにその題名が暗示するように、この詩は新疆出身の香妃の夢と幻影を西域の地に追い求めるという形式で書かれた、新しい西域想像（西域のイメージーション）の提示である。詩題の「香妃」は清朝乾隆帝（1711-99）の妃のひとりであった容妃（1734-88）この伝記をもとに作りあげられた伝説的人物である。容妃はウイグルのイスラム貴族卓和（ホージャ）家の出身で、清の宮廷に入った。彼女はえもいわれぬ馥郁たる香りを放つ身体をもっており、ために「香妃」の名がついたという。乾隆帝は彼女を気に入ったが、香妃は断固として帝を拒否、ついに死を賜った、という。しかしこれは事実ではないようだ。「香妃」の伝説は細部にわたってはさまざまであり、その実在を疑うものもある。容妃の墓は北京郊外にあるが、「香妃」の墓はカシュガルにあり観光の名所となっている。

この詩の主題は香妃の人間としての強さ、その品性の気高さなどを歌い上げる点にある。だが同時に、作者・張詩劍がその旅で見聞した新疆を賛美することも大きな主題と言っていだらう。詩人は2001年初めて新疆を旅し、香港に帰ってこの「香妃夢回」を書いた。詩中の言を信じるならば、詩人が新疆にあこがれたのは詩の書かれた三十五年前、ちょうど文革前夜の1965～66年頃のことである。その後、張詩劍はずっと新疆への旅を夢見ていたことになる。だから実はこの詩は香妃を描いたというより、その新疆への憧れを、香妃賛美に托して表現したものだという方が適切かもしれない。

詩に表現される新疆は「現在」の新疆でありながら、これまでに形成され、蓄積されてきた西域に関する語彙や詩句を巧みに利用して、言いかえれば古典的な「西域想像」を通して描かれている。いわばこれまでの「辺塞詩」の「総合」である。その方法は決して新しいものではないが、出現した詩はまぎれもなく「新しい辺塞詩」である。詩の描く空間は新疆全土におよび、時間は古代から現代までを貫く。大きな構成の詩である。こうした詩の出現は、作者が大陸ではなく、香港に生活する詩人であること、また、この詩の制作年代が、新时期文学が行き詰まり、文学が新しい表現形態を求めてさまざまな実験を試みつつあった「世紀末」だったこと、など関わっているであろう。そういう点でこの詩は「西域」を扱う文学作品としては、新機軸を打ち出した新しい表現であることを確認しておきたいと思う。そしてそれがまたこの詩を翻訳紹介しようとする理由である。ただ近年特に深刻の度を加える新疆の民族対立などへの関心はみられず、その非社会性がこの詩のロマンティズムを成立させていることも、また指摘しておきたい。

香妃の夢 返る

張詩劍

—
挺立——

世人眼中的胡楊樹
 活着 千年不死
 死了 千年不倒
 倒下 千年不爛
 我崇拜
 你的堅毅

—
聳え立つ——

胡楊樹¹⁾ 世の人は言う
 生き続け 千年は死ぬことなく
 死んでも 千年は倒れることなく
 倒れても 千年は腐ることがない
 ああ 何という
 あなたの強さ

—
青春——

情人心裡的紅柳²⁾
 機靈地生于大戈壁
 金沙海
 亦能戰勝塩碱地
 我敬仰
 你的品性

—
青春——

恋人の心に生える紅柳
 大ゴビの沙漠
 金の沙の海に 巧みに根を張り
 アルカリの大地との戦いに打ち勝つことができる
 ああ なんと
 あなたの品性

—
留香——

残留香妃の夢
 你不稀罕三千寵愛
 集一身
 敬重胡楊 悵念紅柳
 擲棄金堆玉砌
 你要吸納山川的精華
 鍾愛莽莽草原
 馬隊羊群
 傾心戈壁、沙海

—
漂う香りに——

香妃の夢が残る
 あなたは 宮女三千から選ばれ
 一身に集めた寵愛を棄て
 胡楊を敬い 紅柳を思いやることを選んだ
 金と玉とで建てられた人工の宮殿を捨て
 山川自然の精華を身に取り込むことを求めた
 果てしなく広がる草原と
 馬や羊の群れを愛し
 ゴビの沙漠、砂の海に心を傾けた

-
- 1) 「ヤナギ」「ポプラ」の一種。砂漠に生え、乾燥、激しい気候変動に耐え、アルカリ土壌の中で成長できる。
 - 2) ふつう新疆、甘肅などの高原に育つ喬木。赤い花を咲かせ、実を結ぶ。ゴビ砂漠にも自生し、地中深く根をはり、根の長さは30メートルにも達する。

八百里紅艷の火焰山 ³⁾ 和	八百里も続く艶やかに赤い火焰山と
大漠孤烟 ⁴⁾	無辺に広がる沙漠に上る一筋の煙
千年積雪	千年の時間を経た雪が
塑你玉骨冰肌 ⁵⁾	あなたの美しい身体と高貴な気節をつくり上げた
天山雪蓮 ⁶⁾	天山の雪蓮の
熏浴出絶世奇香	香りを浴びて絶世の香りが生まれたのだ
你不想当皇妃	あなたは皇妃になりたくなかった
就做鉄扇公主 ⁷⁾ 吧	ならば鉄扇公主になればいい
我素愛投火 ⁸⁾	私はまことの愛を捧げ火焰山に投げよう
只求手下留情	そのときはどうか寛大に見てほしい

二

絲路 ⁹⁾ 遥遥	遥かに続く絹の道には
留下飄影香魂	あなたの影が漂いあなたの精が残る
交河故城、高昌故城 ¹⁰⁾	交河の城址、高昌の城址には
都凝聚你的残夢	あなたの見果てぬ夢が凝集している
吐魯番地下の五千公里	トルファンの地下五千キロ
坎兒井 ¹¹⁾	広がる地下の井戸からは

-
- 3) 天山山脈付近にあり、タクラマカン砂漠タリム盆地の北部、トルファンの東部の丘陵。砂岩の侵食でできた赤い地肌に、炎を思わせる模様ができているため火焰山の名がある。平均標高500メートルの山頂が、長さ98キロメートル、幅9キロメートルにわたって続く。
- 4) 「大漠孤煙」は王維の詩「使至塞上（使いして塞上に至る）」に見える。
- 5) 「玉骨冰肌」女性のしなやかな身体としっかりとした肌を言う。高貴な品性、気節の喩えにも用いる。
- 6) 新疆の高山に産する薬用植物。深紅色の花をつける。
- 7) 「鉄扇公主」は『西遊記』第59回から61回までに出てくる女性。三蔵法師の一行が火焰山に阻まれ進むことができなくなる。火焰山の炎を消すことのできる芭蕉扇を手に入れるため、孫悟空が持ち主の羅刹女および夫の牛魔王と戦い、如来の命を受けて駆けつけた天兵の加勢を得て羅刹女、牛魔王を降し、ついに芭蕉扇を手に入れる。かくして火焰山の炎は鎮まる。三蔵法師らは羅刹女に扇を返し、彼女は謝して隠棲修行に旅立ち、後にその成果を得て経蔵中に名をとどめるまでになる。鉄扇公主はその羅刹女のこと。
- 8) 普通は「飛蛾投火（飛ぶ蛾、火に投ず）」「赴湯投火（湯に赴き、火に投ず）」の意。いずれも「死を恐れず危険に赴く」意と「自ら滅亡を求める」意がある。だがここでは、香妃が鉄扇公主になるのであれば、自分は鉄扇公主に愛を捧げ、それを火焰山の炎で燃え上がらせた、そのときは香妃は咎め立てせず見てほしい、という意。
- 9) シルクロード。
- 10) 交河（ヤルホト）は前漢の新疆にあった車師国の王城、高昌（カラホジョ）は同時期に漢がここに屯田を開いた地。後5世紀に建国した高昌王国の王城。ともにトルファンの市内にある。
- 11) カレーズ。飲用と灌漑用の地下用水路。新疆全体には1600本の坎兒井があるが、トルファン地

湧着生命之泉	命の泉が湧きだしている
你的血液	それはあなたの血
我在葡萄溝の葡萄架下	私はブドウ溝の葡萄棚の下で
飲馬奶子、奶酒	馬乳を呑み、馬乳酒を飲んだ
有飲必醉	飲めば酔い
醉卧你的夢懷	酔い潰れ あなたの夢の懷に入り込んだ
達阪城的姑娘 ¹²⁾	夢の中 達阪城の娘たちが
以妬忌的口吻 ¹³⁾	妬ましげな口ぶりで
大唱馬車夫之歌	大いに馬車の御者の歌を歌い
争吃嫁女抓飯 ¹⁴⁾	争って嫁入りの「抓飯」を食べている
夢酣夢回	夢たけなわで夢から還り
我感悟到你的輝煌	私はあなたの輝かしさを感じ悟った
博格達 ¹⁵⁾ 雪山	ボゴダの雪山の三つの嶺
三峰起伏形似筆架	その起伏する様は筆置に似る
夢中	夢の中で
我与你同浴于天池 ¹⁶⁾	私はあなたと天池で共に水浴びし
共賦詩文	共に詩文を賦した
冰結的相思 也許	氷で結ばれた思いは あるいは
来自一樣的体香	おなじ香りから来たものかもしれない
三	
張騫、班超、陳誠 ¹⁷⁾	張騫、班超、陳誠は

区だけでも総延長5000kmに及ぶ1000本の坎兒井があるという。

- 12) 「達阪城」はまた「大阪城」とも書く。ウルムチからトルファンへの途中にある小さな町。西部の少数民族を題材にした歌曲を作った王洛賓の1938年の「大阪城的姑娘」で有名になった。「大阪城的姑娘」はウイグル族の若い男の求婚をテーマにした歌で、軽快な曲が愛され全国に広まった。もとは「馬車夫之歌」というウイグル語の民歌。ここは実際の大阪城の娘と歌曲の題名を掛けており、次の「馬車夫之歌」が実はその元歌という仕掛けになっている。
- 13) 「妬忌」は男に求婚された娘のことを、仲間の娘たちが羨みねたむのであろう。
- 14) 「抓飯」はウイグル族の羊肉などの混ぜご飯。手掴みで食べる。普通は結婚式でふるまわれるから、ここは結婚式に招かれた娘たちが「抓飯」を食べているのである。
- 15) ボゴダ山。新疆ウイグル族自治区の中部、天山山脈の東にある。平均海拔4000メートル以上。主峰ボゴダ峰は5445メートル。
- 16) 天山山脈の高地にある池。
- 17) 張騫(? - 前114)は武帝の命で大月氏との同盟を結ぶべく西域に入った。匈奴に捕えられ10数年拘留された。中国人の西域への関心を高めた最初の人物。班超(32-102)は漢朝から遣わさ

都出使過西域	いずれも西域に使いしたことがある
我只是遲來的訪客	私など遅れて訪ね来た旅人にすぎない
喀什的香陵 ¹⁸⁾	カシュガルの香妃陵には
摆滿鮮花、異果	花々や珍奇な果物が所狭しと供えられ
瞻仰你成了美麗的神話	仰ぎ見れば あなたは美しい神話となってい
《福樂智慧》的作者 ¹⁹⁾	ウイグルの哲学詩「幸福への智慧」の作者は
就是你的芳隣 ²⁰⁾	まさにあなたの近隣に眠る
来来来，共同切磋	さあ、さあ、ともに探求討議しよう
聖人九百年前的哲思之光	九百年前の聖人の哲学・思想の光を
那金蝶銀蝶 ²¹⁾	あの金の蝶、銀の蝶は
就从這里飛起	ここから飛び立ち
要去破訳 生的意義	生の意義
愛的秘密	愛の秘密
死的抉抉	死の選択を解説したのだ
我念挂的香香公主啊	思いをかける我が香妃よ
你的幸与不幸	あなたの幸福と不幸は
都算一種榮耀	いずれも一種の誉れ
所尋求的人間極品	探し求めた人の世の最上の品
既遠且近	遠くまた近い
歲月的靈感并無錯位	歲月の靈感には間違いはない
肺腑之激情	心の底から湧き出た激情は
酸酸甜甜的波瀾	甘酸っぱい波のように
總在徘徊	いつも胸の中を徘徊している
誰能突破世俗的深奧	世俗の深奥を突き破り
穿越無限的智惠長廊	無限に続く智惠の廊下を ぐぐりぬける者などいない

れ西域を平定、31年間西域に滞在した。陳誠（1365-1457）は明代に5度にわたって西域に使いした。

- 18) 実在の容妃の墓は河北省遵化県の清の東陵にあるが、カシュガルにも香妃の墓がある。
- 19) 「福樂智慧（幸福への智慧）」は1069年に書かれたウイグルの哲学詩『クタドグ・ビリグ』（Qutadghu bilik）の中国語訳。作者はユースフ・ハーッス・ハジープ（yusup.has.hajip 中国語訳は優素甫・哈斯・哈吉甫）。
- 20) ユースフの墓もカシュガル市内にある。
- 21) 香妃にはその香りを慕って常に多くの蝶が周囲を舞い飛んだという。

玉素甫²²⁾ 詩曰：

“誰有知識，
誰將獲得世界”
公正、叡智、知足、行善
你擁有八字真言
雖死猶生 生命長存

ユースフの「幸福への智慧」にあるように、
「知識を持つ者が、
いつか世界を獲得する」
「公正で、叡智あり、足るを知り、善を行なう」
あなたのこの八つの真実の語は
身は死んでも生き残り その生命は永遠に続く

四

“詩人は鳥族” 鄭愁予²³⁾ 説

有時相聚有時獨飛
我們一群雁
最近飛過天山南北²⁴⁾
而三十五年前
我曾獨自翹望冰鏡
忍耐一万三千個日夜的
苦待
并非貪欲
吐魯番的葡萄哈密瓜
庫車的姑娘一枝花
渴望拜訪
天山雪蓮 領略
四十七種民族風情
震撼心靈的大漠雄風
把自己修練成
一副文武英姿漢子
如堅強的胡楊樹
扎根于天池南坡
携香妃的夢魂
登天攬月
鈎地取油

「詩人は鳥の一族」とは鄭愁予の言葉
時には群れで時には一羽で空を飛ぶ
私たちは一群の雁のように
近頃天山山脈の南北を飛んだ
だが 三十五年前
私は一人遠くから氷の鏡を眺めていたのだ
一万三千の日夜を耐え
ひたすら待ち続けた
決して貪り欲するのではない
トルファンのブドウやハミの瓜を
クチャの娘たちの一枝花を
激しく望むのだ
天山の雪蓮を訪ね見たい
四十七の民族の民情風俗を 味わい
心を揺さぶるような大砂漠の雄大な風で
自分を鍛えて
文武にすぐれる男になりたい
堅強な胡楊樹のように
天池の南の坂に根をおろし
香妃の夢の魂を連れ
天に昇って月を抱き
地に潜って石油をとりた

22) ユースフの漢字名は普通「優素甫」である。

23) 鄭愁予 (1933-) は台湾の詩人。山東に生まれ、49年台湾に渡った。

24) 作者・張詩劍はこの詩を書く3か月前に新疆を旅行している。

宇宙之三才	宇宙を形成する三つの主要な才（材料・要素）
天（時）	天の時
地（利）	地の利
人（和）	人の和の
集中意蘊于你的	その含蓄が あなたの
精（髓）	精髓
氣（質）	氣質
神（韻）	神韻に集められている
各族人生存于協調和諧 ²⁵⁾	各民族の人々は協調和諧の中に共存している
這是禪悟的境界	これは禪の悟りの境地
赤裸的本真	隠すことのない根本の真実
已獲解脫的香妃啊	すでに解脱を得た香妃よ
你已進入無所碍的	あなたはもはや遮られることのない
自由王国	自由の王国に入り
尽情欣賞	極まることのない大自然の結晶を
無極的大自然結晶	心ゆくまで楽しんでいる

五

天池的雪液	天池の雪解け水は
滲入葡萄溝	ブドウ溝に沁み入り
滲入石河子 ²⁶⁾	石河子に沁みこみ
滲入塔里木河	タリム河に沁みこみ
流灌庫爾勒的香梨 ²⁷⁾	流れてクルリの香梨に灌ぐ
澆緑原来寸草不長的	もともと寸草も育たなかった龍山を潤し
龍山風景	風景を緑に変えた
星羅棋布的綠洲	星や碁石のように分布するオアシスは
在繁衍生機	次第に生氣を増やしている
王母的蟠桃 ²⁸⁾ 喜歡嗎？	西王母の桃は好き？

25) 「和諧」はこの詩の創作当時の中国共産党総書記・胡錦濤の唱えたスローガン。ただ作者がそれを意識しているかどうかは分からない。

26) 天山山脈の北麓に位置する、農業と工業の結合した都市。「ゴビ砂漠の明珠」といわれる。

27) クルリの香梨は新疆の特産。甘くて香りのいいことで知られる。

28) 王母は「西王母」であろう。崑崙山に住む仙女で、そこには3千年に1回しか実らないという桃があるという。その桃が「王母の蟠桃」で、不老長寿の仙薬とされる。

石榴裙 ²⁹⁾ 的石榴喜歡嗎？	石榴裙のザクロはお好き？
無花之果 ³⁰⁾ 喜歡嗎？	イチジクはお好き？
紅与黒 (茄汁和石油 ³¹⁾)	赤と黒 (トマトケチャップと石油)
白与彩 (白棉与彩棉 ³²⁾)	白と彩 (白い棉と色どりの棉)
和田玉 (即是昆岡玉 ³³⁾)	ホータンの玉 (即ち昆岡玉)
你都喜歡嗎？	あなたはどれも好き？
博格達靈山	靈山・ボクダは
贈你浮空月鏡	あなたに空に浮かぶ月の鏡を贈った
巍巍崑崙 ³⁴⁾	険しい高山・崑崙は
饋你雪白的哈達 ³⁵⁾	あなたに雪のように白いハダを贈った
誠實是最大的智慧	誠実は最大の智慧
純潔的愛隨緣	純潔な愛は縁に随う
你的鍾情	あなたがこの地を好きになったことは
阿凡提 ³⁶⁾ 可以作証	アフアンティが証明してくれる
你可抱着綿羊	あなたは羊を抱いて
傾聽駝鈴的回音	駝鈴の音のこだまに聞き入っている
我陪你	私はあなたのお伴をして
在通往塔里木的	タリムに通じる
沙漠公路飛馳	沙漠の道路を飛び馳った
無辺的戈壁丘物	果てしないゴビの砂丘が

29) 「石榴裙」はザクロの花のように赤い色のスカート。ザクロも新疆の特産物である。

30) 新疆南部ホータン地区に「無花果王樹」と呼ばれるイチジクの木がある。樹齢4百年、今でも年産2～3万個のイチジクを産出する。

31) 新疆はトマトの生産量が中国最大。石油埋蔵量、生産量はそれほど多くないが天然ガスは最大である。トマトケチャップと石油によって農業、鉱工業の新疆の重要性を示している。

32) 「彩棉」は、雑交によって作られた天然の色つき綿花。中国各地に産するが、新疆の産出量が圧倒的に多い。

33) 中国の玉で最も有名なのはホータンの玉である。「崑岡」とは崑崙山のことで、玉は崑崙山のもののが最上というが、その崑崙の玉がつまりホータンの玉である。

34) 崑崙山。西はインドのパミール高原東部から始まり、新疆、チベットの間を横断し、東は青海省まで延びる。東西の長さ約2500キロ。海拔6000メートル前後、雪嶺、氷河が多い。

35) 「ハダ」はチベット人、モンゴル人が表敬の贈り物にする白い布。

36) モロッコから新疆イリ地方に至るイスラム教徒の間に伝わる伝説的人物。日本の一休さんに似た頓知、機智によって悪を懲らしめ庶民を助ける人物として人気がある。「アフアンティ」はウイグル語で「先生」の意味という。

如千軍万馬在奔騰 旋轉 千軍万馬のように勢いよく奔り 旋回している

天円地円人円夢円 天, 地, 人, 夢はみなまるい円

我们在無限中 私たちは無限の円の中

通向無極…… 無極に向かっている……

写于2001年9月訪問新疆帰来后 2001年9月新疆訪問から帰ってのち執筆。

2001.12.1. 发表于香港《文匯報》 2001年12月1日香港『文匯報』に発表。

〔補注〕張詩剣について

作者の張詩剣は、本名張思鑑、1938年福建省長樂県生まれ。地元の高校を出て、文革直前の65年厦門大学中文系を卒業した。78年から香港に定住している。85年文学結社「龍香文学社」が結成される際、その発起人の一人となり、常務副社長、社長を歴任した。また同文学社の刊行する雑誌『香港文学報』主編、『当代詩壇』副主編。ほかに世界華人詩人協会理事、香港作家聯合会理事、国際詩人ペンクラブの発起人の一人でもある。92年には深圳作家協会副主席に選出され、さらに97年香港返還の際の祝賀委員にも選ばれ、式典に参加している。香港返還後、中国作家協会は香港の作家の中から会員を選んだが、張は金庸らと共にその選に入った。また上海同済大学などの客員教授に任じ、国内の文学界との交流も多い。香港は、冷戦時代、西側にとって大陸に通じる唯一の窓口だったこともあり、文学者たちの政治的立場は複雑で、中国共産党に批判的な文学者も少なくない。そうした中で張詩剣は大陸側の立場に立つ文学者ということになる。

詩人としては、1985年海峡文芸出版社から詩集『愛的笛音』を出したのを皮切りに、『流花醉』(1997)、『秋的思考』(2000) = いずれも香港文学報社刊 = があり、また編著に『香港当代文学精品叢書』全6巻、長江文芸出版社、1994、などがある。また香港文学報社刊『香港作家作品研究』第8巻(2007)は張詩剣の專輯である。(以上、いずれも未見)

さて、今回翻訳した「香妃夢回」は初め2001年12月1日の香港『文匯報』に掲載された、いくつかの雑誌に転載された後、2012年6月、中国民主法制出版社の「北京開放大学經典読本系列叢書」の1冊として編まれた『台港名家名作選読』に採録された。これは台湾、香港からそれぞれ6名の詩人の作品を「經典」として選ぶもので、「香妃夢回」は、戴天、黄国彬、也斯、傅天虹、鍾偉民ら香港を代表する詩人の作品とともに選ばれている。「香妃夢回」が張詩剣のみならず香港現代詩の代表作として認知されたことを示すものであろう。(2013年7月)